



馬の蹄

「蹄なくして馬なし」という言葉をご存じでしょうか？馬において、いかに蹄が大切かということを表した言葉です。今回は、馬の蹄についてお話しします。

馬は、人間でいう親指・人差し指・薬指・小指が退化しており、常に中指一本で体重を支えています。これは、肢を長くすることでストライドを延長し、肢の先を軽くすることでピッチを上げるという、捕食者から逃げる際に少しでも早く走れるように進化してきた結果と考えられています。一方で、それぞれの肢にかかる負荷は大きく、体重500kgの馬の場合、トップスピードで走っている時の前肢には最大で1000kg重もの垂直荷重がかかります。そして、肢の一番先端で負荷を受け止めているのが蹄です。蹄は皮膚の一部が角化したもので、骨ではありません。指先の骨は蹄の内部にあり、結合組織によって蹄壁に吊り下げられるようにして固定されています。つまり、蹄が受けた負荷は結合組織を介して骨格に伝わる仕組みになっており、足裏の骨で直接的に骨格に負重している人間とは、体の支え方が大きく違うのです。

また、蹄は全体が同じように硬いわけではありません。蹄踵（ていしょう）と呼ばれる後ろ側の部分は比較的柔らかく、負重した時に押し潰されて広がり、肢を上げた時に元に戻るといった蹄機（ていき）作用を持っています。これによって、着地の衝撃を和らげることに加え、末梢部分の血流を促進するポンプのような働きが可能になっています。蹄が「第二の心臓」とも言われるゆえんです。重度の骨折などで通常どおりの歩行ができなくなると、蹄の血液循環が滞ることなどが原因となって、蹄壁と骨を繋ぐ結合組織が炎症を起こして剥がれてしまう蹄葉炎という病気になり、生命に関わる事態に繋がることもあるのです。



このように、馬が生きていくうえで蹄は非常に重要なものです。健康な蹄を維持するためには、日頃の手入れに加えて適切な装蹄蹄が欠かせません。季節や年齢によっても異なりますが、蹄は一ヶ月に8mmほど伸びていきます。競走馬のように運動量が多い場合は伸びる以上に削れてしまうため、蹄の保護を目的として装着しているのが蹄鉄です。古い蹄鉄を取り外し、伸びた蹄を切って形を整え、新しい蹄鉄を装着することを改装といい、競走馬では2~3週間ごとに実施する必要があります。これを担うのが装蹄師という専門職の人たちで、蹄の状態や立ち方・歩き方の癖などを考慮しつつ作業する、まさに職人技です。大井競馬場では、主催者の承認を受けた装蹄師が日頃から蹄の管理を行っています。

3月23日からはナイター開催！

TCKでは、1月から昼間開催を行っていましたが、3月23日（月）の第19回開催から再びナイター開催が始まります。3月25日（水）には、第49回京浜盃（Jpn II）を実施。これは、3歳ダート三冠競走の第一戦・羽田盃（4月29日実施予定）の前哨戦に位置づけられる競走で、前回の京浜盃優勝馬であるナチュラルライズ号は、その後の羽田盃と東京ダービーを制し、三冠制覇まであと一歩というところまで迫りました。今後のダートグレード戦線の行方を占ううえでも重要なこのレース、今回勝つのはどの馬か、ぜひご注目ください。



第48回京浜盃優勝馬 ナチュラルライズ号

（競馬事務局 広報課）

開催成績

（各回対比）

回別	開催日程	売得金額	利用者数	1日平均			前年度同時期対比(1日平均)		
				売得金額	利用者数	1人当り購買金額	売得金額	利用者数	1人当り購買金額
16	1/26~1/30	7,417,684,290円	702,493人	1,483,536,860円	140,499人	10,560円	86.6%	77.4%	112.0%
17	2/16~2/20	8,681,770,950円	911,343人	1,736,354,190円	182,269人	9,530円	100.6%	101.0%	99.7%